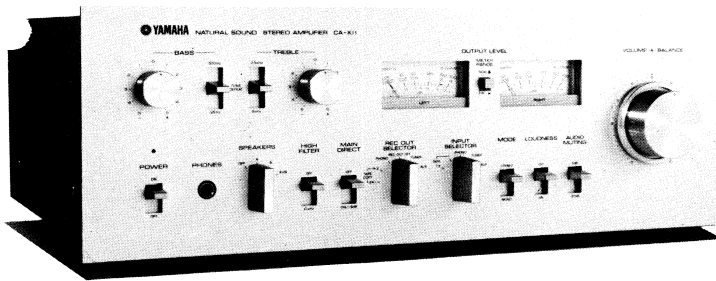


CA-X11

STEREO PRE-MAIN AMPLIFIER CA-X11
GUIDE MANUAL

ヤマハステレオプリメインアンプ
取扱説明書



●ご挨拶

このたびはヤマハステレオプリメインアンプCA-X11をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。ヤマハのもつエレクトロニクス技術のノウハウをすべて結集して完成されたCA-X11は、十分な出力と低歪率のメインアンプ（OCL SEPP 純コンプリメンタリー回路）をもち、プリアンプ部は低雑音のイコライザーとNF CR型トーンコントロールで構成されています。そのほか、すぐれた電氣的諸特性に加え、豊富な付属回路・付属機構を備えています。応用性の高いCA-X11の性能をフルに発揮させると同時に、長年故障なくお使いいただくため、この取扱説明書をご使用のまえにぜひお読みくださいますようお願いいたします。

●目次

特長・ご使用になる前に	3
フロントパネル面の名称	4
リアパネル面の名称	5
接続一覧図	6
各機器の接続と使いかた	
スピーカーシステムの接続	7
ヘッドホーン、レコードプレーヤーの接続	8
チューナー、AUXの接続	9
テープデッキの接続	10
付属機構について	
トーンコントロール	12
ハイフィルター、メインダイレクトスイッチ	13
ボリューム、バランス、ラウドネススイッチ	14
オーディオミュート、メーターレンジスイッチ	15
規格・ブロックダイアグラム	16
特性図	17
故障と思われるときには	18
サービスのご依頼について	19

なる前に

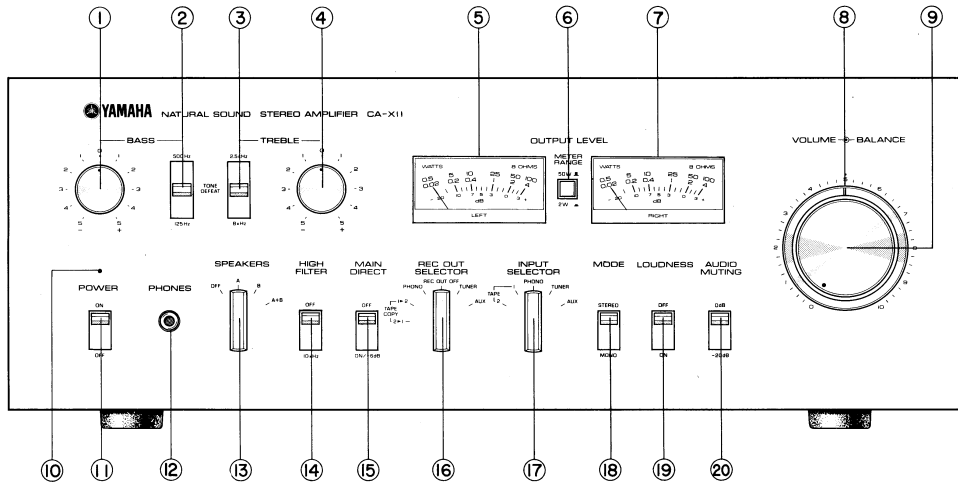
●特長

- メインアンプは初段にデュアルTr 差動入力、カレントミラー負荷、終段に OCL SEPP 純コンプリメンタリー回路を採用 低歪率と 45W+45W (20~20KHz, T.H.D 0.05%) の出力を得ています。
- プリアンプはイコライザーに Tr3 石・2 段構成、サブソニックフィルター内蔵のローノイズタイプを使用。出力電圧の大きい MC カートリッジの接続が可能です。トーンコントロールは Tr3 石差動入力、NF CR タイプを用い、さらにターンオーバー切り替えを設けることにより、使用範囲を拡大しています。
- MAIN DIRECT スイッチの採用で、チューナー、イコライザーの出力をメインアンプに直結することにより歪、残留ノイズの低減化をはかっています。
- レンジ(2W, 50W)切り替え式、大型出力レベルメーターの採用。
- リレー方式スピーカー保護回路内蔵。
- HIGH FILTER, LOUDNESS, AUDIO MUTING, REC OUT SELECTOR など豊富な付属回路。
- メーター照明、スイッチ類の感触、外装など人間工学に基づきルックスとフィーリングの向上をはかりました。

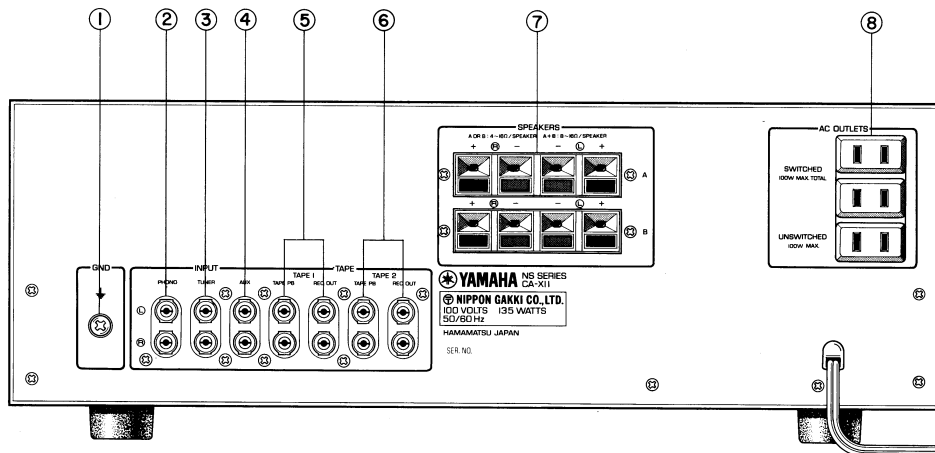
●次のことにご注意ください

- 設置場所は、直射日光のあたるところや湿気の多いところをできるだけ避けるようにしてください。
- 電源スイッチを ON にして約 4 秒間ぐらひはスピーカーから音が出ませんが、これはショックノイズ防止用のミュート回路が動作しているためで、アンプが規定の動作状態になると、スピーカーから音が出ます。
- REC OUT SELECTOR, INPUT SELECTOR などのスイッチ類は、説明に従い適正な操作をするようにしてください。無理な力を加えたり、途中で止めてご使用になるようなことは避けてください。
- 出力レベルメーター指示におきまして±2dB の誤差は許容範囲に入っております。
- VOLUME ツマミの目盛《3》以下でご使用になるような場合にはなるべく AUDIO MUTING スイッチを《-20dB》のポジションにしてボリュームをあげてお使いください。
- お買い上げいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、十分ご注意くださいますようお願いいたします。

名称



- | | |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| ① BASS (低音コントロール) | ⑪ POWER (電源スイッチ) |
| ② ターンオーバー, トーンディフェイトスイッチ | ⑫ PHONES (ヘッドホンジャック) |
| ③ ターンオーバー, トーンディフェイトスイッチ | ⑬ SPEAKERS (スピーカー切り替えスイッチ) |
| ④ TREBLE (高音コントロール) | ⑭ HIGH FILTER (ハイフィルタースイッチ) |
| ⑤ OUTPUT LEVEL (出力レベルメーター, L) | ⑮ MAIN DIRECT (メインダイレクトスイッチ) |
| ⑥ METER RANGE (メーターレンジスイッチ) | ⑯ REC OUT SELECTOR (録音出力切り替えスイッチ) |
| ⑦ OUTPUT LEVEL (出力レベルメーター, R) | ⑰ INPUT SELECTOR (入力切り替えスイッチ) |
| ⑧ BALANCE (バランスコントロール) | ⑱ MODE (モードスイッチ) |
| ⑨ VOLUME (ボリュームコントロール) | ⑲ LOUDNESS (ラウドネススイッチ) |
| ⑩ パワーインジケータ | ⑳ AUDIO MUTING (ミュートスイッチ) |



① GND (アース端子)

② PHONO (フォノ入力端子)

③ TUNER (チューナー入力端子)

④ AUX (補助入力端子)

⑤ TAPE 1 (テープ録再端子 1)

REC OUT (テープ録音端子)

TAPE PB (テープ再生端子)

⑥ TAPE 2 (テープ録再端子 2)

REC OUT (テープ録音端子)

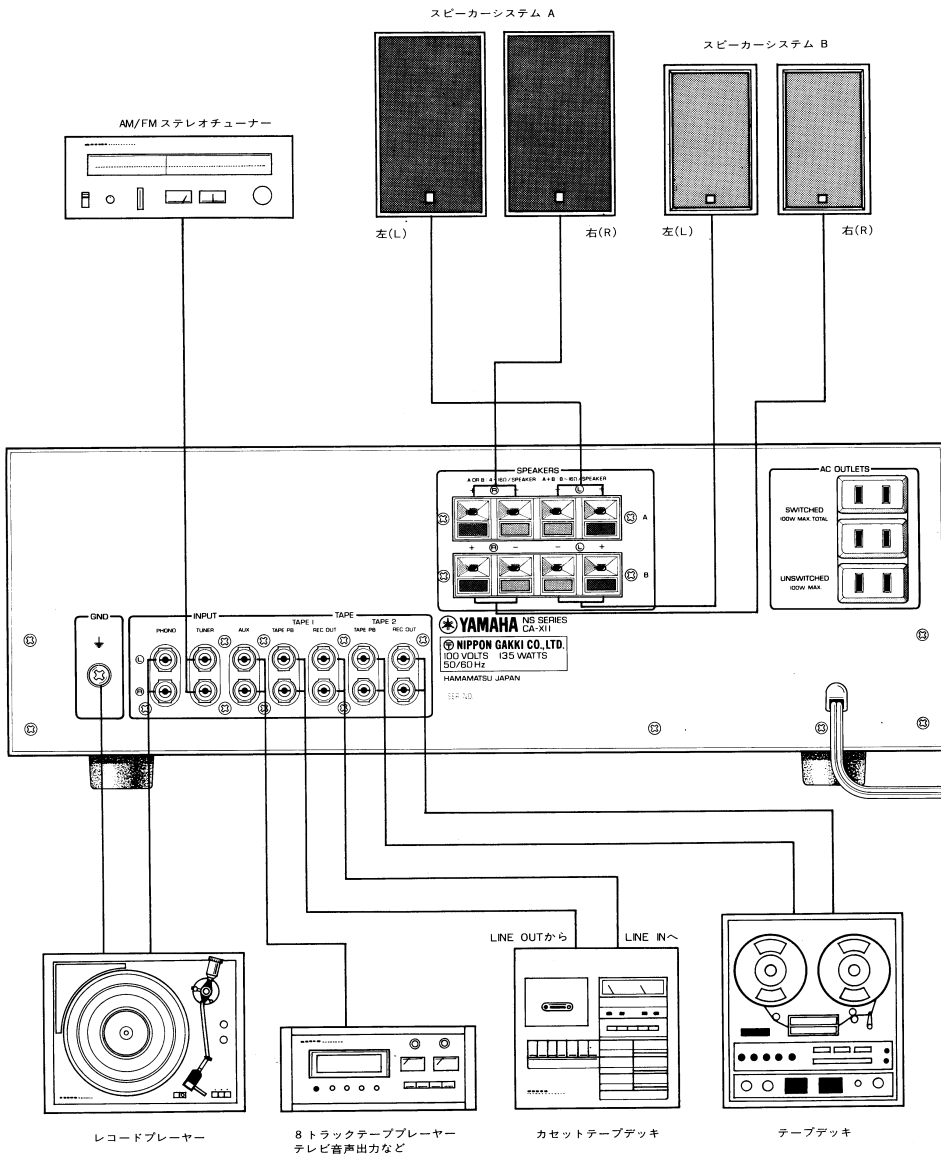
TAPE PB (テープ再生端子)

⑦ SPEAKERS A, B (スピーカー出力端子)

⑧ AC OUTLETS (予備電源コンセント)

SWITCHED (電源スイッチ連動, 100Wまで供給)

UNSWITCHED (電源スイッチ非連動, 100Wまで供給)



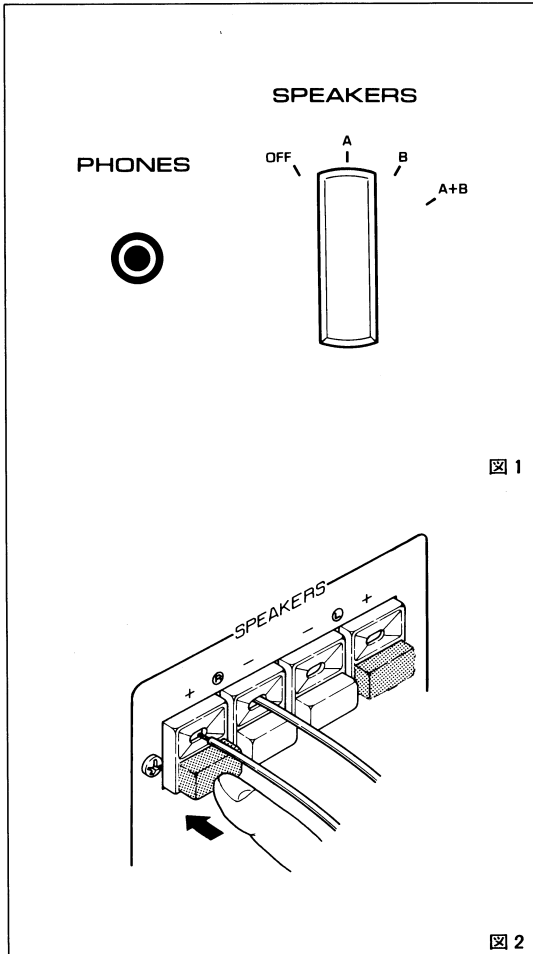


図 1

図 2

●スピーカーシステムの接続と使いかた

アンプリアパネルに2組のスピーカー接続端子(SPEAKERS A, B)があり、2組のスピーカーシステムが接続できるようになっています。フロントパネルのSPEAKERSスイッチによってA, Bそれぞれ単独にも、A+Bと2組同時に使うこともできます。A+Bで使用するときには各スピーカーのインピーダンスが8Ω以上のものを使用してください。OFFのポジションにすると、A, Bのどのスピーカーからも音は出なくなります。(図1)

■接続方法

- ①リアパネルのSPEAKERS A 端子へ、向って左側のスピーカーシステムのコードをL端子、右側のスピーカーシステムのコードをR端子に、位相(+, -)を確認してから接続してください。L, Rを反対に接続したり、位相(+, -)をまちがえて接続するとステレオ感のない不自然な再生音になってしまいますから注意してください。
- ②スピーカー接続端子は、(図2)のようにプッシュ式で下のボタンを押した状態でスピーカーコードの先端をさし込み、ボタンを離すとコードはロックされます。このとき、確実にロックされていることをコードを引っ張って確認してください。赤い端子が+で、黒い端子が-です。
- ③スピーカーシステムを2組お使いになるときは同様にSPEAKERS B端子へスピーカーコードのL, Rと+, -に注意して確実に接続してください。

●ヘッドホンの接続と使いかた

ヘッドホンプラグをヘッドホン端子に差込んでください。この時スピーカーの音は切れませんので、ヘッドホンだけでお聴きになりたい時は、スピーカー切り替えスイッチをOFFのポジションにしてください。スピーカーからの音が消えてヘッドホンだけで聴くことができます。ヘッドホンはL側が左耳にくるようにしてお使いください。

(図3)

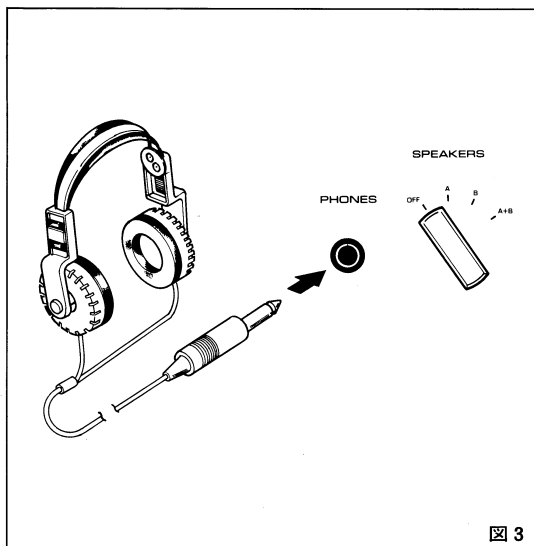


図 3

●レコードプレーヤーの接続と使いかた

プレーヤーから出ているシールド線先端のピンプラグのL, Rを確認して、PHONOの入力端子に接続してください。ピンプラグと共にアース線も出ている場合はリアパネルのGND端子に接続してください。(図4)

レコードを演奏するときは、フロントパネルのINPUT SELECTOR スイッチをPHONOに切り替えればレコードを演奏することができます。

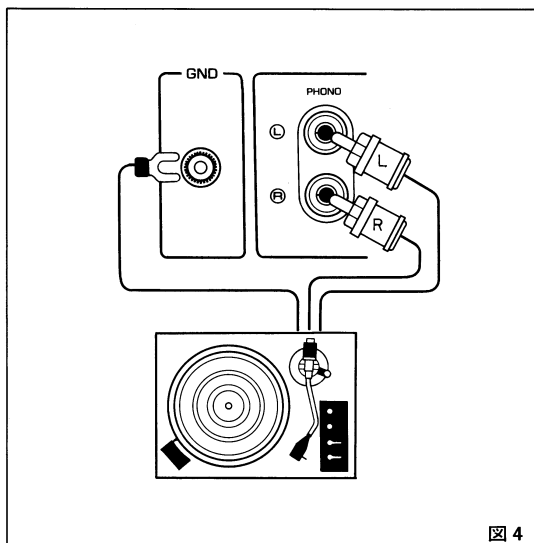


図 4

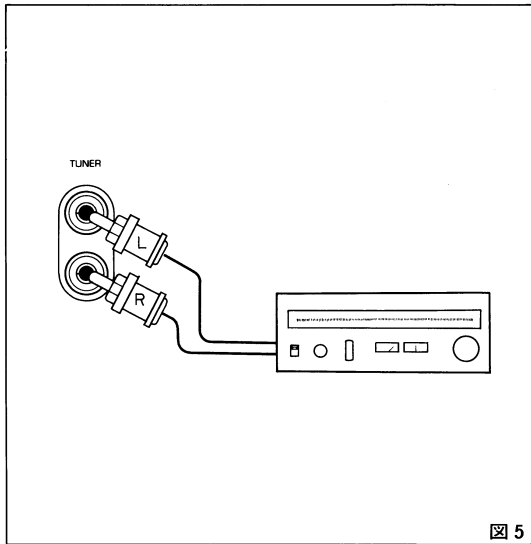


図 5

●チューナーの接続と使いかた

チューナーの出力端子とアンプリアパネルの TUNER 端子の L, R を確認してピンコードで接続します。

チューナーで FM 放送あるいは AM 放送を聴く場合には、INPUT SELECTOR スイッチを TUNER のポジションにセットし、チューナーを操作して希望放送局の周波数に合わせてください。TUNER 端子は、入力感度 150mV、入力インピーダンス 47K Ω です。チューナーに出力レベル調整ボリュームが付いているときは、適切に調整し INPUT SELECTOR スイッチを切り替えたときの音量差をあらかじめ調整しておいてください。(図 5)

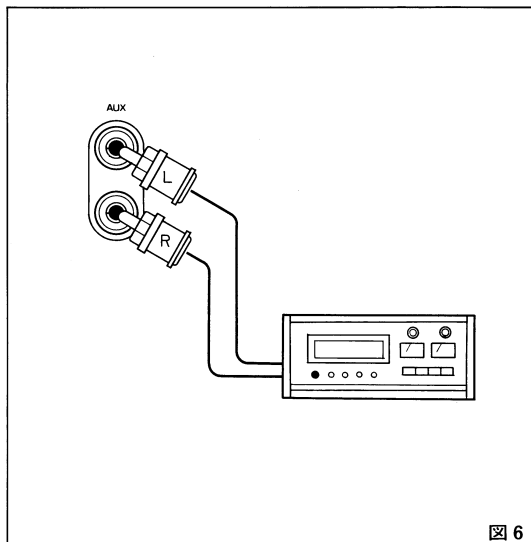


図 6

●AUX への接続と使いかた

AUX 端子は補助入力用の端子で、接続使用する機器の出力端子とアンプリアパネルの AUX 端子の L, R を確認してピンコードで接続します。(図 6)

この端子は、入力感度 150mV、入力インピーダンス 47K Ω で、2 台のチューナーを使って比較試聴やテレビの音声チューナーをはじめ、8トラックテーププレーヤーやマイクロホンのミキシングアンプなどが接続できます。また、クリスタルやセラミックなど出力電圧の高い圧電型カートリッジをご使用になる場合には、この端子に接続してください

モノラルのテープレコーダーなどの、モノラルのプログラムソースを片チャンネルの端子に接続する場合には、フロントパネルの MODE スイッチを MONO にセットしてください。

●テープデッキの接続と使いかた

2回路のTAPE PB（テープ再生）端子とREC OUT（テープ録音）端子を備えていますので、2台のテープデッキを接続使用することができます。

アンプで再生中のプログラムソースを2台のデッキに同時録音できるだけでなく、デッキ1▶2、デッキ2▶1とデッキ相互間のダビング（コピー）も可能です。

■接続方法

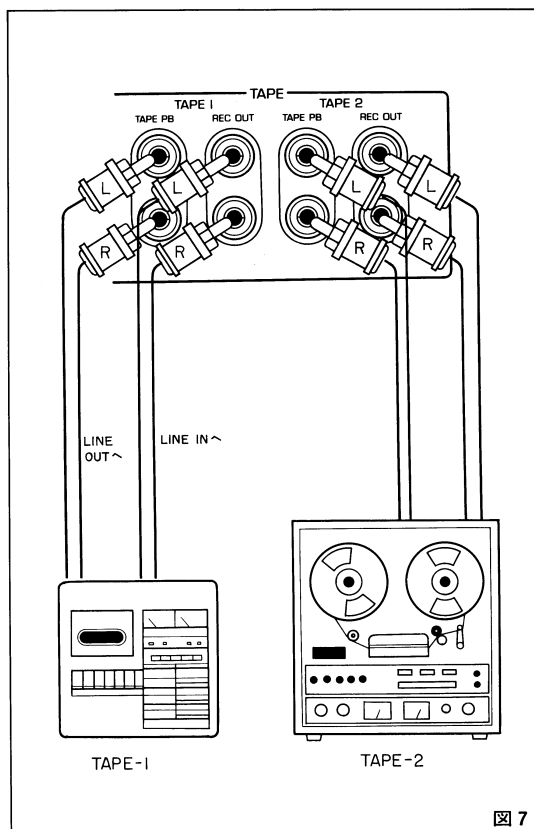
アンプリアパネルのTAPE 1、TAPE PB端子とテープデッキのLINE OUT（再生出力）端子とを、また、REC OUT端子とテープデッキのLINE IN（録音入力）端子とをそれぞれL、Rを確認してピンコードで接続してください。TAPE 2の場合もTAPE 1と同様に接続します。（図7）

■テープの再生

INPUT SELECTORをTAPE 1（TAPE 1端子へ接続しているテープデッキを再生するとき）、またはTAPE 2（TAPE 2端子へ接続しているテープデッキを再生するとき）のいずれかのポジションにセットし、テープデッキをPLAY（再生）にします。これでテープに録音されているプログラムソースが再生されます。

■テープへの録音

REC OUT SELECTORを録音したいプログラムソースのポジションにし、TAPE 1あるいは、TAPE 2のREC OUT端子に接続してあるテープデッキを録音状態にすれば、アンプで再生しながらそのプログラムソースをテープに録音することができます。2台のデッキが接続してあるときには、両方のデッキに同時録音することができます。



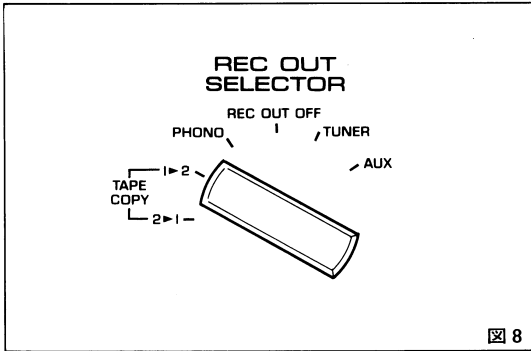


図 8

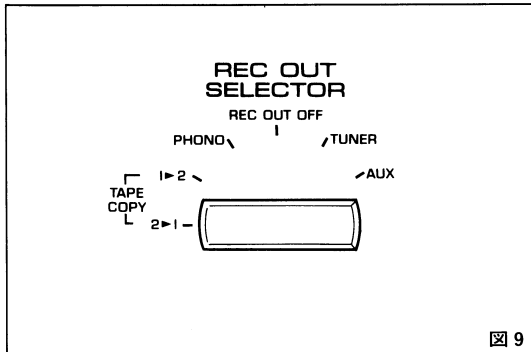


図 9

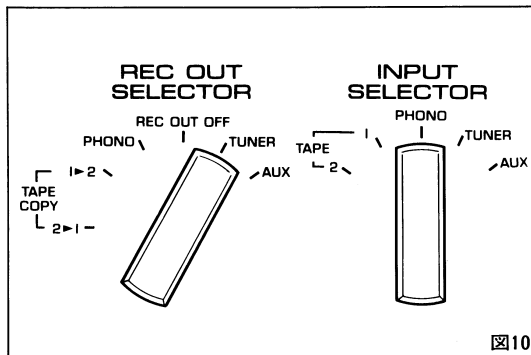


図10

■テープのダビング(コピー)

2台のテープデッキが接続されている場合には、テープからテープへのダビングが可能です。

TAPE 1端子に接続してあるテープデッキからTAPE 2端子に接続してあるテープデッキへのダビングをおこなうときは、REC OUT SELECTORスイッチをTAPE COPY 1▶2のポジションにセットし、テープデッキ1を再生操作、テープデッキ2を録音操作します。(図8)

また、インプットセレクターをTAPE 2に合せていただき、テープデッキ2(録音する側のデッキ)が3ヘッド式や録音モニターのできるデッキならば、テープデッキ2からアンプに送られてくる信号が再生されますので、録音のチェックをすることができます。

テープデッキ2からテープデッキ1へのダビングも同様で、REC OUT SELECTORスイッチをTAPE COPY 2▶1のポジションにセットし、テープデッキ2を再生操作、テープデッキ1を録音操作にしてください。(図9)

■録音しながら他のプログラムを再生する場合

REC OUT 端子に出てくるプログラムソースをINPUT SELECTORスイッチのプログラムと関係なく切り替えて録音することができます。

例えば、INPUT SELECTORスイッチでレコードを再生しスピーカーで聴きながらREC OUT SELECTORスイッチでチューナーの録音をするというダブルアクションやテープのダビングなどが可能です。(図10)

● トーンコントロール

音質は部屋の状態などによって相当変わりますが、自分の耳にフィットするように自由に音質を変化させる回路がトーンコントロールです。調整は低域と高域と別々になっています。(図11)

BASS(低音調整)は低音調整ツマミとスイッチで調整できるようになっています。低音調整ツマミは11ポジションのクリックストップ式で1目盛が約2dBステップ、0ポジションがフラットな状態で、右へ回すほど低音が強調され、左へ回すほど減衰されます。

低音調整ツマミの右のスイッチが低音のターンオーバー切り替えとトーンディフェルトを兼ねています。ターンオーバー周波数は500Hz、125Hzに切り替えられ、それぞれのポジションで変化します。**TONE DEFEAT**(トーンディフェルト)ポジションにすると、トーンコントロール回路の音質を変える部分が解除されフラットアンプとして働きますので、低音調整ツマミがどんな位置にあってもフラットな周波数特性の音を得ることができます。

TREBLE(高音調整)についても同様ですが、**TREBLE**のツマミは1目盛が約2dBステップになっています。高音調整ツマミ左側のスイッチが高音のターンオーバー切り替えとトーンディフェルトを兼ね、ターンオーバー周波数は2.5kHz、8kHzに切り替えられ、トーンディフェルトでトーンコントロール回路が解除されます。(図12)

(注)このスイッチを切り替えるときに多少のクリックノイズが入りますが、これは故障ではありません。

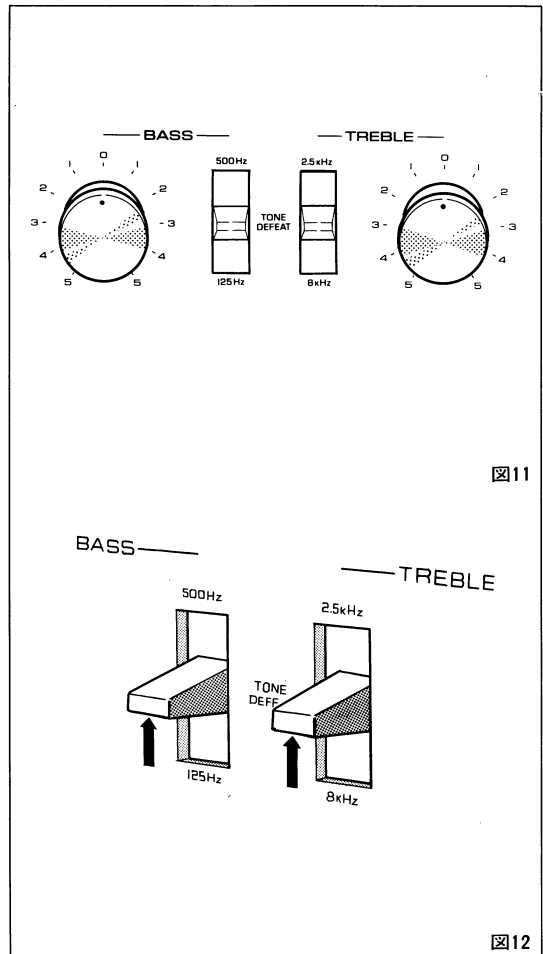


図11

図12

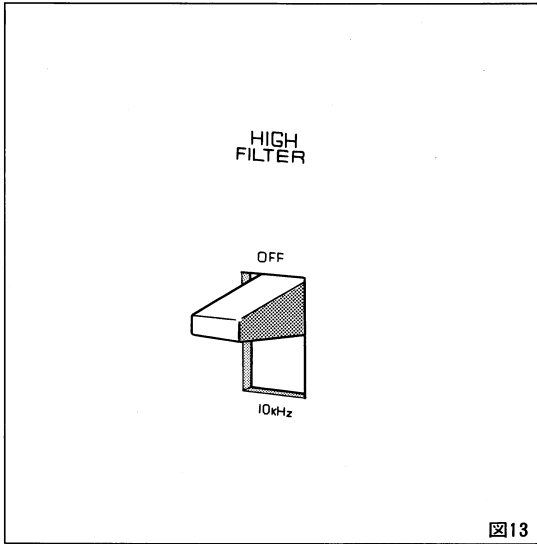


図13

●ハイフィルター

レコードのスクラッチノイズなどの高域雑音をカットするハイカットフィルターです。HIGH FILTERをONにすると10kHz以上を-6dB/オクターブの遮断特性でカットします。カットオフ周波数を10kHzと高くして必要な信号に対する影響を少なくしています。

とくにフィルターを必要としない場合はHIGH FILTERをOFFにしておいてください。(図13)

(注)本機には、低域のモーターゴロやランブルなどの有害な雑音をカットする、サブソニックフィルタースイッチは装備していませんが、イコライザーアンプにサブソニックフィルターを内蔵していますから、レコード演奏のときは、モーターゴロやランブルなどのノイズはカットされるようになっています。

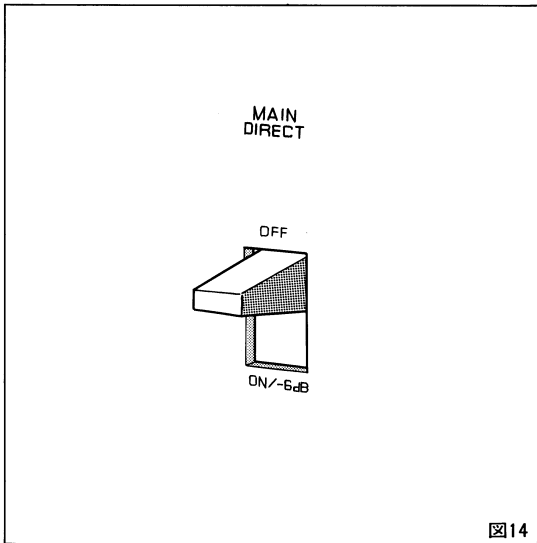


図14

●メインダイレクト

MAIN DIRECTスイッチをONにすると信号は、プリアンプ部のトーンコントロールアンプを経由せず直接メインアンプに接続されます。このため、信号経路がシンプルになり、完全なデフィート状態が得られます。

このときBASS、TREBLEのトーンコントロールおよびHIGH FILTERは動作しませんが、その他のコントロール類は普通に動作します。

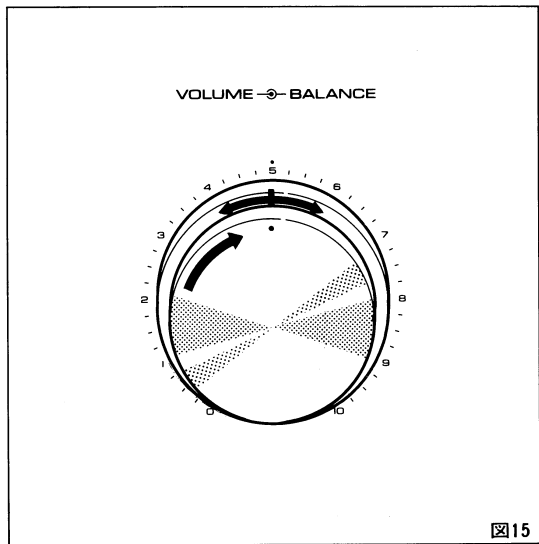
(注)またMAIN DIRECT ONでは音量が6dB(1/2)だけ小さくなります。(図14)

●ボリュームコントロール

音量を調整するつまみで右へ回すと音が大きくなります。電源スイッチをONにする際やINPUT SELECTORスイッチを切り替える場合には音量を下げていると不用意に大きな音が出ません。(図15)

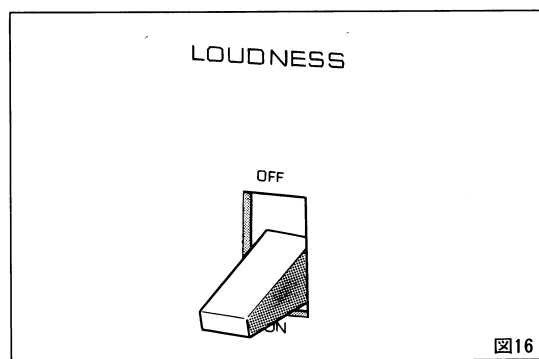
●バランスコントロール

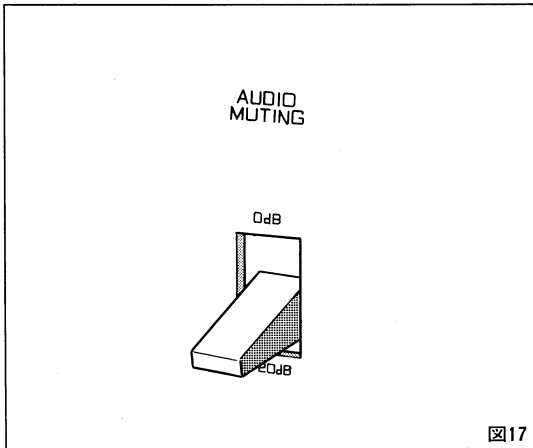
ステレオ・バランスは左右スピーカーの能率の違いや家具の配置などによって影響を受けます。またプログラムソース自体に片寄りがある場合もあります。バランスつまみで左右それぞれのチャンネルの音量を調整してください。右に回すと左側の音が小さく、左に回すと右側の音が小さくなります。バランスをとるにはモードスイッチをMONOのポジションにし、音量を普通聞いている程度にあげて中央から音が聞こえるように調整します。いつも聞かれる位置で正しいバランスになるように調整してください。調整がすみましたらモードスイッチをSTEREOに戻してください。(図15)



●ラウドネススイッチ

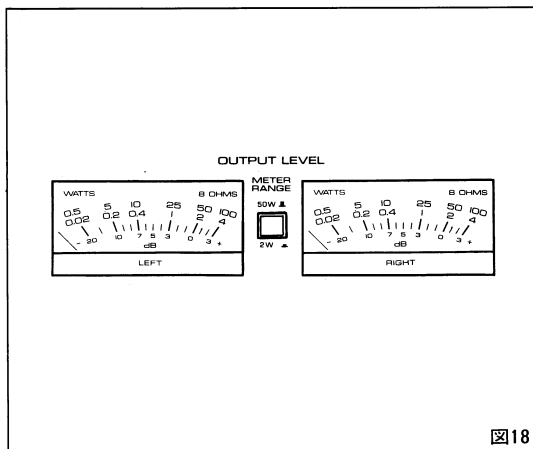
人間の聴覚には音量が小さくなるにつれて低音と高音が聞こえにくくなるという特性があり、これを補正するためのスイッチです。小音量でお聞きになる場合はONの位置にセットしますと小音量でも豊かな音となります。(図16)





●オーディオミュートスイッチ

AUDIO MUTING スイッチを-20dB のポジションにすると、VOLUME ツマミを回さずにアンプの音量を20dB (1/10)下げることができます。レコード演奏中に電話がかかってきたときなど一時的に音量を小さくする場合に便利です。またボリューム目盛3以下位の小音量できく場合には、このミュートSWを-20dBに入れてボリュームをあげて使いますと音量の細かい調整が出来ます。(図17)
(注)-20dBのポジションにしたままVOLUMEツマミで音量をあげた後、スイッチを0dBのポジションに戻すとスピーカーに過大な入力が入りスピーカーを破損する場合がありますのでご注意ください。



●メーター、アウトプットレベル

出力レベルメーターは-20dBから+3dBのレベルを表示するほか、8Ωのスピーカーシステムを接続した場合の出力を直続することができます。OUTPUT LEVEL スイッチによりメーター感度を切り替えることができ、50Wのとき、0dBが50W/8Ω、2Wのとき0dBが2W/8Ωを表わします。8Ω以外のスピーカーシステムを使用するときは下に示した計算式で換算することができます。

$$\frac{8}{\text{使用スピーカーのインピーダンス}} \times \text{表示} = \text{使用スピーカーの出力}$$

たとえば4Ωのスピーカーシステムの場合は、表示の2倍が実際の出力になります。(図18)

●付属品について

■六角棒レンチ

六角棒レンチはSPEAKERS, REC OUT SELECTOR, INPUT SELECTOR スイッチなどの垂直位置を調整するときに必要です。

グラム

●規格

入力感度/インピーダンス

PHONO..... 2.5mV/47K Ω
 TUNER, AUX, TAPE PB..... 150mV/47K Ω

最大許容入力

PHONO.....150mV以上

出力レベル/インピーダンス

REC OUT.....150mV/600 Ω
 8 Ω , 0.05% 20~20KHz..... 45+45W
 1KHz..... 50+50W
 4 Ω , 0.1% 20~20KHz..... 50+50W
 1KHz..... 65+65W

パワーバンド幅

8 Ω , 0.05% 22.5W.....10~50KHz

ダンピングファクター(8 Ω , 1KHz)

.....50以上

チャンネルセパレーション(1KHz)

PHONO, TUNER \rightarrow SP OUT.....65dB以上

全高調波歪率

PHONO \rightarrow REC OUT(20~20KHz, 1V).....0.01%以下
 TUNER, AUX, TAPE PB \rightarrow SP OUT(8 Ω , 22.5W)
 MAIN DIRECT OFF.....0.02%以下
 MAIN DIRECT ON.....0.01%以下

混交調歪率

TUNER, AUX, TAPE PB \rightarrow SP OUT(8 Ω , 22.5W)
 MAIN DIRECT OFF.....0.02%以下
 MAIN DIRECT ON.....0.01%以下

N. D. C. R.(VOL. -20dB)

PHONO \rightarrow SP OUT 1KHz, 0.1% THD
 MAIN DIRECT ON.....10mW~45W
 MAIN DIRECT OFF.....0.1W~45W

周波数特性

PHONO \rightarrow REC OUT.....30~15KHz, \pm 0.3dB
 TUNER, AUX, TAPE PB \rightarrow SP OUT(8 Ω)
 10~100KHz, 0 \pm 0dB

S/N(入力ショート, IHF, Aネットワーク)

PHONO.....85dB
 TUNER, AUX, TAPE PB.....100dB
 残留ノイズレベル(IHF, Aネットワーク).....160 μ V

トーンコントロール

BASS(ターンオーバー=500Hz, 125Hz).....
 20Hz \pm 10dB
 TREBLE(ターンオーバー=2.5KHz, 8KHz).....
 20KHz \pm 10dB

フィルター(ハイカット).....fc=10KHz, -6dB/oct

ラウドネス(VOL.-30dB) 50Hz..... +6dB
 20KHz..... +3dB

ミュートイング

MAIN DIRECT ON時

ゲイン TUNER, AUX, TAPE PB \rightarrow SP OUT.....
 -6dB
 残留ノイズ(VOL.min, IHF, Aネットワーク).....
 70 μ V

スピーカー負荷インピーダンス

SP.スイッチ A, B..... 4~16 Ω
 A+B..... 各々8~16 Ω

ヘッドホーン定格出力

8 Ω , 20~20KHz..... 55mW

外形寸法

.....435(W) \times 160(H) \times 335(D)mm

重量

.....9Kg

定格電源電圧

.....AC100V

定格周波数

.....50/60Hz

定格消費電力

.....135W

ACアウトレット

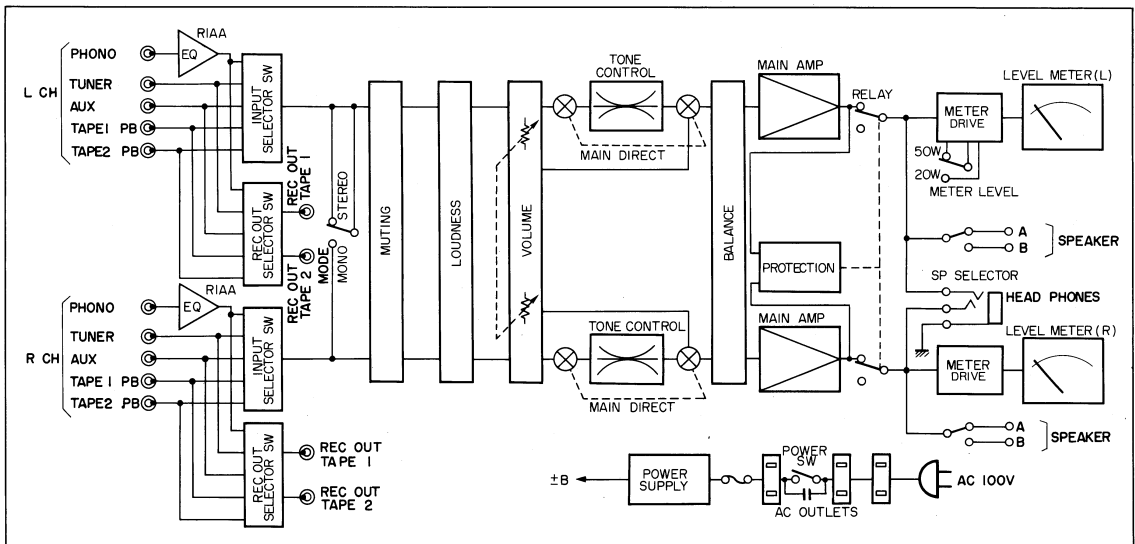
SWITCHED.....2
 UNSWITCHED.....1

使用半導体

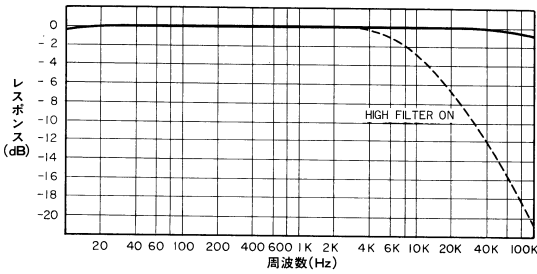
トランジスタ.....40
 ダイオード.....17
 LED.....1

●規格及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます

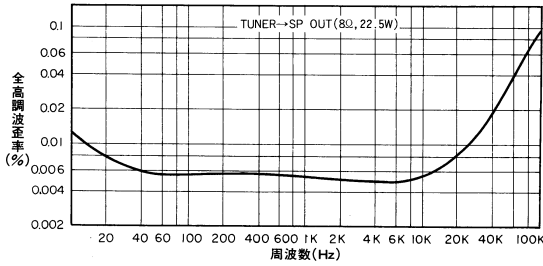
●ブロックダイアグラム



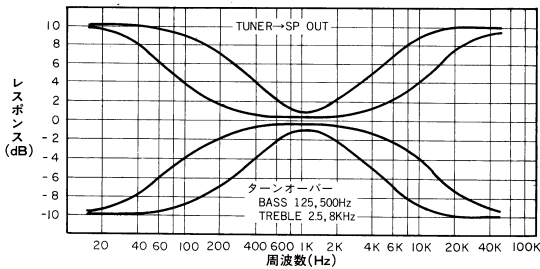
■周波数/フィルター特性



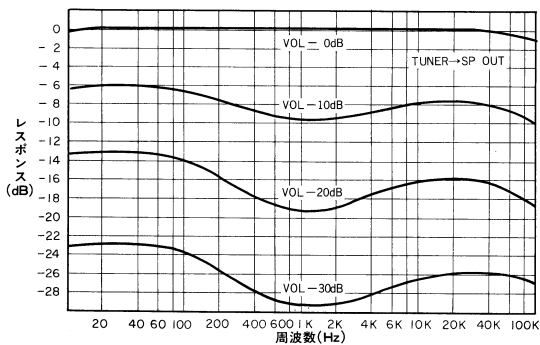
■周波数対全高調歪率



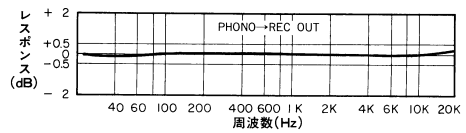
■トーンコントロール特性



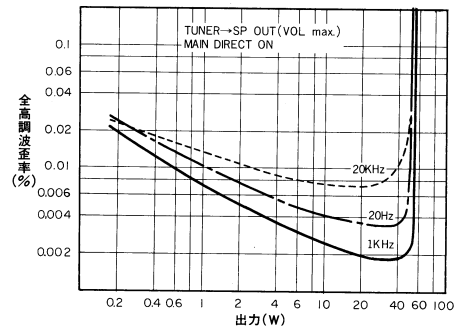
■ラウドネス特性



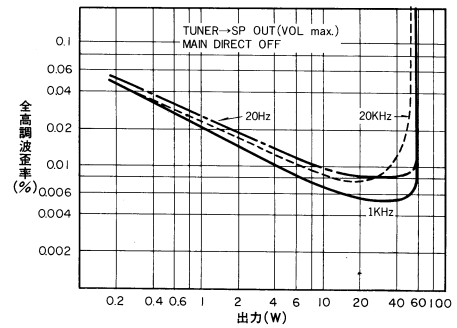
■PHONO RIAA偏差



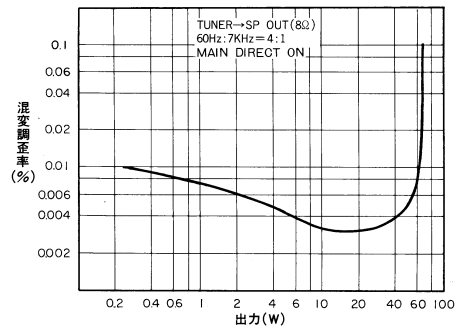
■出力対全高調歪率



■出力対全高調歪率



■出力対混変調歪率



には……

症 状	原 因	処 置
電源スイッチを ON にしても電源が入らない	電源コードが電灯線コンセントにしっかり差込まれていない 電源ヒューズが切れている	コンセントにしっかり差込み直してください 日本楽器各支店のオーディオ技術係に相談してください
接続は完全だが、INPUT SELECTOR スイッチを切り替えても再生音が全く出ない	SPEAKERS スイッチがOFFになっている	SPEAKERS スイッチを適切なポジションに合わせてください
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない	スピーカーコードの接続が不完全	スピーカーコードの接続を確認してください
	SPEAKERS スイッチがOFFになっている	SPEAKERS スイッチを適切なポジションに合わせてください
	BALANCE ツマミがずれている	BALANCE ツマミを正しく調整してください
再生中に突然音が出なくなった	スピーカー出力端子に±2V以上の直流電位が発生したため、 スピーカー保護回路が動作している	電位が0Vになり次第、リレーが働き回路がつかまります 電源スイッチをOFFにし、しばらくしてONにしてください
	電源ヒューズの切断	日本楽器各支店のオーディオ技術係に相談してください

低音のない不自然な再生音で、音像が定位しない	スピーカーの位相(+, -)が合っていない	位相(+, -)を合わせて接続してください
VOLUME をあげても音量が余り大きくならない	AUDIO MUTING スイッチが-20dBのポジションになっている	VOLUMEを一たん下げ、AUDIO MUTINGを0dBにしてください

レコード演奏のとき、“ブーン”というハム音が入る	ピンプラグとシールド線の接触不良	シールド線を新しいものと交換してください
	プレーヤーのアース線をGND端子に接続していない	アース線をリアパネルGND端子に接続してください (接続しない方がいい場合もある)
業務無線・アマチュア無線等の通信内容、放送が再生音に混入する	近所に送信所・基地・アマチュア無線局等がある	日本楽器各支店のオーディオ技術係に相談してください 電波を発射している所に相談する
レコード再生時、VOLUME をあげると“ワーン”という音が出る	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして“ハウリング”を起こしている	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてください。
FM/AM放送、レコード演奏、テープ演奏のときの音量に差がある	チューナーとレコードプレーヤー、テープレコーダーの出力が異なっている	VOLUME ツマミで最適な音量に調整してください

●サービスのご依頼は、お買上店、または日本楽器各支店オーディオ技術係へお願い致します

保証について

●サービスのご依頼は、お買上げ店、または日本楽器各支店オーディオ技術係へお願い致します。

■支店への持込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買上店又は最寄りの日本楽器各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお得ですし、短期間でおなおしすることができます。裏表紙の日本楽器各支店の所在地と電話番号をご参照ください。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず“故障と思われる時には……”の項をお読みになってください。故障ではなく、ご自分でかんたんになおしになれる場合もあると思います。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障ではない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきます)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(セットの具合をもう少しわしくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によってお約束を変更しなければならないようなときに、お客様にご迷惑をおかけしないですみます)

■故障の状態はくわしく

サービスをご依頼なさるときは、故障の状態をできるだけくわしくお知らせください。またセットの型番、製造番号などもあわせてお知らせください。(サービスにお伺いする際、あらかじめ補修部品などを手配し、二度お伺いしなければならぬようなご迷惑をおかけすることがありません)

■サービスのお約束

お仕事の関係で昼間ご不在がちのお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪くなられましたら、できるだけおはやくご連絡くださるよう

お願い致します。(事前にご連絡をいたしませんと、ご不在の場合でも、出張料を頂戴いたしますので、ご注意ください)

■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施致します。尚補修用性能部品の保有期間は8年となっております。

■万一お買上店でのサービスについてのご不満又は製品の不調や疑問がございましたら、ご面倒ではございますが、下記日本楽器各支店オーディオ技術係にご連絡くださいますようお願い致します。

■各支店住所(オーディオ技術係)

東京支店・〒101	東京都千代田区外神田3-10-12 TEL (03)255-2241
横浜支店・〒231	横浜市中区本町6-61-1 TEL (045)212-3111
千葉支店・〒280	千葉市千葉港2-1(千葉コミュニティセンター内) TEL (0472)47-6611
関東支店・〒370	高崎市歌川町8番地(高崎センター内) TEL (0273)27-3366
大阪支店・〒564	吹田市新芦屋下1-16 TEL (06)877-5151
神戸支店・〒650	神戸市生田区元町通り1-46(エビスヒラマツビル内) TEL (078)392-1388
四国支店・〒760	高松市西宝町2丁目6-44 TEL (0878)33-2233
名古屋支店・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
北陸支店・〒921	金沢市泉本町7-7 TEL (0762)43-6111
九州支店・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151
北海道支店・〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台支店・〒980	仙台市一番町2-6-5 TEL (0222)27-8511
広島支店・〒731-01	広島市紙園町西原862(技術センターニシク内) TEL (08287)4-3787
浜松支店・〒430	浜松市鍛冶町122 TEL (0534)54-4111

日本楽器製造株式会社

- 本社・工場 〒430・浜松市中沢町10-1
TEL-0534(61)1111
- 東京支店 〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内
TEL-03(572)3111
- 銀座店 〒104・東京都中央区銀座7-9-14
TEL-03(572)3111
- 渋谷店 〒150・東京都渋谷区道玄坂2-10-7
TEL-03(463)4221
- 池袋店 〒171・東京都豊島区南池袋1-24-2
TEL-03(981)5271
- 横浜支店 〒231・横浜市中区本町6-61-1
TEL-045(212)3111
- ジャイナス 〒220・横浜市西区南幸1-5-1
TEL-045(311)1201
- 千葉支店 〒280・千葉市千葉港2-1(千葉コミュニティセンター内)
TEL-0472(47)6611
- 関東支店 〒370・高崎市歌川町8(高崎センター内)
TEL-0273(27)3366
- 大阪支店 〒564・吹田市新芦屋下1-16
TEL-06(877)5151
- 心斎橋店 〒542・大阪市南区心斎橋筋2-39
TEL-06(211)8331
- 梅田店 〒530・大阪市北区梅田町1/阪神百貨店5階
TEL-06(345)4731
- 神戸支店 〒651・神戸市舞合区浜辺通り6丁目1-36
TEL-078(232)1111
- 四国支店 〒760・高松市丸亀町8-7
TEL-0878(51)7777
- 名古屋支店 〒460・名古屋市中区錦1-18-28
TEL-052(201)5141
- 北陸支店 〒921・金沢市野町1-2-43/安藤ビル内
TEL-0762(43)3801
- 九州支店 〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL-092(472)2151
- 福岡店 〒810・福岡市中区天神1-11/福岡ビル内
TEL-092(721)7621
- 小倉店 〒802・北九州市小倉区魚町1-1-1
TEL-093(531)4331
- 北海道支店 〒064・札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター
TEL-011(512)6111
- 仙台支店 〒980・仙台市1番町2-6-5
TEL-0222(27)8511
- 広島支店 〒730・広島市紙屋町1-1-18
TEL-0822(48)4511
- 浜松支店 〒430・浜松市鍛冶町122
TEL-0534(54)4111
- 海外支店 ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・
シンガポール・フィリピン